

● ストラスブールの都市交通政策について

団員 森岡 功

ストラスブール市は、フランス北東部のライン川左岸に位置する人口約 28 万人、ドイツとの国境付近にある都市で、ドイツ語で「道路の交差している街」として古くから国境を越えた交通の要衝として栄えていた。そして現在は、欧州評議会や欧州人権裁判所、欧州連合議会本会議場を擁しており EU を象徴する国際都市であり、28 市町村で構成されるストラスブール広域都市圏（人口約 46 万人）の中心都市でもある。このまちはわずか 20 年の間に、トラム（超低床式路面電車）を中心に据えたまちの再生を見事に果たし、公共交通や自転車を活かしたまちづくりの成功例として、「環境先進都市」「魅力あるまち」としてのブランドイメージを獲得した。

しかし、1960 年には、一度路面電車を廃止し、バスと自動車に交通手段が切り替わり、70 年代からは、日本と同じように自動車中心の都市計画が進められたという。90 年代前半までは大気汚染と交通渋滞、中心市街地の衰退に悩む地方都市であった過去を持つ。



(交通局で説明を受ける視察団)

まちが危機感に襲われていた 80 年代から、市民や政治家を中心として、まちづくりの議論が盛んに行われはじめるようになった。89 年にトラム復活を公約に掲げたトロットマン市長が選挙で当選した後は、トラムをまちの顔として位置づけ、都市交通計画を都市政策の基軸に据えた。最初のトラムが 94 年に開通してから 20 年の間に、6 路線約 65 km（営業キロ）の整備が行われており、現在もさらに延伸計画が進行している。

一方で、このような大胆な政治決断に対しては根強い反対も生じるため、導入にあたっての市民との合意形成は必要不可欠である。ストラスブールでは、

丁寧かつ忍耐強い合意形成が行われたとのことであった。

○トラムの環境配慮について

ストラスブールのトラムは様々な点で環境に配慮している。



(近代的なデザインのトラム)

第一の配慮はトラムのデザインである。ベルギー人のデザイナーによってデザインされたトラムの姿は近代的ながら、歴史的な構造物が多く残る街並みとも不思議な調和を見せている。この景観との調和という観点も、トラムが住民に受け入れられた大きな要因ではないかと思う。日本では景観も環

境であるという意識はまだ少ないが、まさにこのような視点は重要であると考ええる。

第二の配慮は軌道における緑化である。トラムの軌道における多くの区間で、軌道の芝生化が行われていた。ともすると無味乾燥な風景になりがちな軌道を緑化することで、自然環境だけでなく景観環境に対する配慮、騒音対策にもなっている。

また、トラムの導入に合わせて、自転車利用の推進も実施してきた。その多くが車道ではなく歩道に並置される形であり、二車線の専用道路や、一日の自転車の通行数を自動的に計る所もある。

自転車道は全長 600 kmにもおよび、フランスではめずらしく自転車のまちとしても栄えている。このような自転車利用の推進は、トラムの推進とともにストラスブールの環境配慮の交通体系の重要な位置づけとされていて、トラムに自転車をラッシュアワー以外は持ち込み可能にしていることもそのような配慮の表れである。



(トラムに乗り入れ可能な自転車と車椅子)

○パークアンドライドについて

ストラスブール市がトラムを導入しようとしたきっかけは、過度に車に依存した社会生活からの脱却と環境への配慮であるが、決して車の利用を排除したものではなく、様々な交通機関を利用することによる交通政策に関する最適化を求めている点が大変重要である。その一つの取り組みが、トラムやバスの公共交通機関と自動車を組み合わせたパークアンドライドの取り組みである。

郊外のトラムやバスの乗車場所近くには自動車の駐車場が整備されており、通常、トラムの運賃は往復一人 3.10 ユーロであるが、その駐車場を利用すれば、わずか 2.90 ユーロで同乗者全員（最大 7 人まで）に往復のトラムのチケットが渡される。また、街の中心部では駐車料金は大変高い設定になっている。こうしたことにより、公共交通機関の利用促進が図られているとともに市内中心部への車の流入が低減されている。

○おわりに

今回のストラスブールの都市交通政策についての行政視察は、時宜を得た意義ある視察であった。

本市でもコンパクトシティを活かすため、自転車共同利用システムやパークアンドライドを推進し、連結 L R T（低床路面電車）、路面・郊外電車のシームレス化、空港延伸など公共交通の見直しに挑戦しようとしており、公共交通政策と都市政策を融合する視点をもとに、市民との合意形成、意見を聴きながら既存の公共交通の利便性を高めることにより、環境に優しい、元気で住みよいまちになるように努力していきたい。